

目されているので、いろいろな挑戦したいですね」

ベンキュージャパン

菊地正志社長

本社台湾、

IT・PC関連電子機器大手、

2024年シミュレーター用

プロジェクトで参入

「日本のゴルフ市場は、伝統と革新が交錯する転換期にあると考えています。持続可能な成長に向けた柔軟な取り組みが求められる中、当社のゴルフシミュレーション用プロジェクトも大事な役割を担いたいし、この分野で国内トップシェアが目標です。」

参入後、ビジネスパートナーとの関係構築を目的にゴルフフェアに出展したり、PR活動にも注力してきました。製品では4Kシリーズ・短焦点モデル・環境にやさしいレーザープロジェクトも発表。様々なインドア環境に対応できる柔軟性を重

視します。

そこで今年は、さらに柔軟性に富んだシリーズを予定します。ゴルフ大国アメリカにはクラブを自分でカスタマイズしたり、自宅ガレージにシミュレーターを設置する『DIYユーザー』が多いのですが、その声を反映したニューモデル。特徴は『自動びったり補正機能』で、オートセンサーでスクリーンを自動検出、適切な解像度を保ちながら投射画面のアスペクト比を自動調整できます。この機能により、手軽にインドアゴルフ空間がつけられると思います。プロジェクトの専門メーカーとして、インドア市場に優れた製品を提供したい。市場活性化に寄与したいと考えています」

地域密着の ゴルフ場経営

鹿沼グループ

福島範治社長

栃木で3コース

108ホール運営

「年末に大型買収が話題になりましたが、特に驚きませんでした。2021年に4000億でアコーディアを買収したファンドが『出口』を考えると、それ以上価値を生むシナジイはPGMしかない。以前からそう思っていたので。」

ただ、買収額(5100億)が凄いいし、一言でいえば脅威です。たとえば購買コスト。カートの購入でも大手は我々より3割ほど安いです。だし、コース数が倍になったのもっと下げられるでしょう。価格競争力も強くなるので、その面では勝負できません。巻き込まれない経営が肝心です。」

2025年は①酷暑対策、②人的資本の充実、③地域連携の3点を強化しますが、地元需要や会員の来場頻度を上げるためにも地域連携は大事です。鹿沼市と連携した花火大会や婚活イベントを例年通り行うほか、市は移住者に補助金(1人1回3万9145円)を出すなど支援しているの、当社が就職の受け皿になりたい。新卒者が10名入る予定ですが、4名が移住者なので、古民家

を改修したシェアハウスを用意します。ほかに地域密着の取り組みとして、ウェブ・LINE会員が2・6万人いますので、他コースと顧客基盤の連携もできるはず。」

3コースを展開しますので、県内のゴルフ場を『買わない?』という話もありますが、施設や機材の老朽化が目立つので爆弾を抱えたくないですね。ゴルフ場の売買は、東阪名の100km圏内を除けば難しいと思うんですよ。大手みたいに18ホールに6万人、営業利益4割なんて運営は無理ですから。買うとすれば、大金持ちの趣味でしょうね。」

今年も酷暑が難題です。昨年6時半スタートのサマータイムをやって好評でしたが、関東では8%しかやってないそうです。カートの後付け送風機はヤマハの代理店が開発中で、今後複数の会社が出せば手頃な値段になるでしょう。時機を見て導入したいですし、スタッフ全員にファン付きウェアの支給を終わっています。」

芝も砂も燃料も、何もかも値上がりする中で、これ以上プレー料金は上げられません。2025年は正念場になりそうです」

巳年に賭ける業界の覚悟 本音コメント総力特集